

お手伝いはほめる種

ねらい	お手伝いをしてもうまくいかない子どものエピソードを題材に、そうした場合の子どもへの接し方や子どもがお手伝いをする工夫や続けられる工夫を考える。
-----	---

流れ・時間	主な活動	留意点
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○進行役の自己紹介 ○ワークのルールを説明 ○アイスブレイク <ul style="list-style-type: none"> ・グループわけ ・自己紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ○温かい雰囲気をつくるよう意識する。 ○アイスブレイク(本題に入る前に行う、話しやすい雰囲気づくり)を行うかどうかや自己紹介の長さは、全体の時間をふまえて自由に設定する。 ○進行役個人の見解に基づくアドバイスは避ける
展開 (10分)	ワーク1 個人 自分の経験や思ったことをワークシートに記入する グループ 思ったこと等を話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ○エピソードを読んで、子どものお手伝いで失敗してしまった経験があれば記入するようながす。 ○お手伝いがうまくできない場合、どのように接するかも考えてもらう。 ○意見交換を通じて、お手伝いの失敗談を共有し、その時にどんな対応がとれるのか、考えてもらう。
(10分)	ワーク2 個人 自分の体験などをワークシートに記入する グループ 気づいたこと等を話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ○実際に、子どもがしているお手伝いや、そのお手伝いができるようになったきっかけを記入するよう伝える。 ○意見交換を通じて、同年代の子どもがどんなお手伝いをしているのか知るとともに、お手伝いができるようになるきっかけづくりのヒントが得られるようにする。
(10分)	ワーク3 個人 思ったことをワークシートに記入する グループ 思ったことを話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもがお手伝いを継続できるようになるためにはどうすればよいかを考え、記入するよう投げかける。 ○意見交換を通じて、各家庭でできるお手伝いの工夫に気づいてもらう。
まとめ (10分)	資料シートの説明	○資料シートを配付し、説明する。